



ニュースレター

第56号

NPO法人 日本リハビリテーション看護学会

事務局案内

住 所 〒162-0825
東京都新宿区神楽坂4-1-1 オザワビル2F
株式会社ワールドプランニング内
NPO法人日本リハビリテーション看護学会
事務センター
電話番号 03(5206)7431 FAX 03(5206)7757
E-mail jrna@worldpl.jp

事務局からのお知らせ

● 登録内容の確認 & メールアドレスご登録のお願い

「会員登録票」をお送りしています。登録内容に変更がないかご確認ください。学会では、学術大会や研修会などのご案内のためにメール配信を始めることになりました。メールアドレスのご登録がまだの方は、「会員登録票」にご記入のうえ、事務局へご提出ください。皆さまのご協力をお願いいたします。

● 2021年度役員選挙について

2021年度役員選挙を実施しました。11月の2022年度通常総会にて候補者を承認後、新役員体制となります(任期: 2022~2023年度)。



リハビリテーション看護実践の評価へのあゆみ

副理事長 板倉喜子 (医療法人白山会 白山リハビリテーション病院)

今年の8月も、連日の猛暑日と各地で大雨による被害もたらされています。そして、新型コロナウイルス感染症の第7波では急速な感染拡大を引き起こしています。医療現場での負担が増すなかで、多くの皆さまの努力と協力で安全と命をつないでいただけることと思います。自然災害、感染災害ともに、被害にあわれた方へのお見舞いと、支援される皆さまに感謝申し上げます。

さて、今年は診療報酬改定がありました。今回特筆すべきこととして、本学会から提案した「摂食嚥下支援加算における摂食嚥下支援チームの看護師に、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師を追加する」要望が通ったことをご報告します。これは、本学会の関連活動のひとつである「全国リハビリテーション医療関連団体協議会」の功績によります。この協議会は『我が国のリハビリテーション医療の普遍化・発展に、今まで以上に確固たる政策提言を行う』ことを目的として、日本リハビリテーション医学

会、日本リハビリテーション病院・施設協会、回復期リハビリテーション病棟協会、日本デイケア協会、日本訪問リハビリテーション協会、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会、本学会の9団体で組織されています。そのなかに「報酬対策委員会」があり、診療報酬改定・介護報酬改定に対して、各団体からの提案や複数の団体が共同提案するなど、協議会として合同で要望を提出するための準備をします。この委員会には厚生労働省保健局の方もオブザーバーで臨時参加されるため、意見を直接伝える貴重な機会でもあり、すでに次の同時改定に向けて準備を開始しています。

また、今年度からは「看護系学会等社会保険連合」にも加盟し、看護の横のつながりのなかでリハビリテーション看護の実践を評価される仕組みを学び、エビデンスの構築に向けて取り組んでいきます。リハビリテーション看護の受け手に役に立つ看護実践の評価へのあゆみを、根気よく、粘り強く、熱意をもって進めてまいります。



NPO法人日本リハビリテーション看護学会 第34回学術大会

- 【開催方法】 WEB開催（オンデマンド配信）
 【配信期間】 2022年11月21日（月）～12月20日（火）
 【テーマ】 アウトカムに貢献するリハビリテーション看護
 【大会長】 板倉喜子（医療法人白山会 白山リハビリテーション病院 看護部長）
 【大会URL】 <https://www.jrna34.net>

生まれてから看取りまで、人の生活を支えるリハビリテーション看護の実践には、対象の人の疾患や全身状態の管理はもちろん、生きる力となる食べる力を支える看護、快適に排泄する尊厳あるケア、そして障害や発達段階における活動と休息のバランスに配慮した、心と体のリハビリテーションが欠かせません。アウトカムにつながる質の高い看護の提供とその可視化についてのヒントを得て、それぞれの看護実践に活かしていただければと願っています。

～ プログラム みどころ ～

- 基調講演の山本則子先生、特別講演の小野田舞先生、教育講演の榊原千秋先生、東野督子先生そして野村哲志先生には大会テーマに共感いただき、本学会への温かいエールを込めてご講演を準備していただいています。また別途、大会に参加される方に向けた『熱いメッセージ』をいただきました。大会ホームページやチラシでご案内していますので、ぜひご覧ください。
- そして、新型コロナ感染の第7波の感染拡大の大変な最中、一般演題のご登録をいただき心より感謝申し上げます。臨床や教育の実践から得られた貴重なご発表がいただけるものと、ワクワクしています。
- その他パネルディスカッション2本、学会企画2本、交流集会4本、共催セミナー8本と、多くの皆さまのご協力により、色とりどり、盛りだくさんなプログラムの企画が叶いました。

何度でも繰り返し視聴していただけるオンデマンド配信により、気になるプログラムを時間の許す限り楽しんでいただければ幸いです。多くの皆さまのご参加を、心よりお待ちしております。

（第34回学術大会長 板倉喜子）



（山本則子先生と板倉大会長）



（白山リハビリテーション病院 外観）

研修会のご案内

- 2022年10月29日（土）Web開催 申込受付中「転倒」
- 2022年12月10日（土）Web開催 申込受付中「せん妄」
- 9～11月の無料視聴動画「リハビリテーション看護を深めるために」



お申込みや詳しいご案内は、学会HPをご覧ください。

**委員会活動報告****研修委員会**

委員長 原 三紀子

研修委員長を務めさせていただいています東邦大学看護学部の原でございます。今期は、東北・関東・東海地区の5名で委員会を運営しています。

新型コロナウイルスの感染拡大により2019年12月に開催した回復期リハビリテーション病院協会との合同研修会を最後に対面での研修会が困難となりました。関東・北関東・東海・東北・九州地区で開催予定であった「生活を支えるフィジカルアセスメント」の研修会もすべて中止となり、大変申し訳ございませんでした。

昨年度は、「フィジカルアセスメント」の基本や「意思決定支援」などリハビリテーション看護を深めるための無料動画の配信を行い、多くの皆様に視聴いただけたことを感謝申し上げます。今年度も、できるだけたくさんの学びの機会を作れるように無料動画配信を継続しています。「フィジカルアセスメント」の応用や、「チーム医療における葛藤」について、また、コロナ禍でWHOなど海外の情報に触れる機会も増えたという現場の声から、リハナースのための English lesson など新たな企画を盛り込みました。対面での研修が、しばらく難しい状況のため9月からはズームによる参加型の研修を予定しています。プログラムは、教育委員会と連携し、リハビリテーション看護クリニカルラダーに対応させて展開していく予定です。研修会では、新たな知識を得る機会だけではなく、会員の皆様がリハビリ看護について考え・語り合える場を作っていきたいと思っております。是非、研修会にご参加下さい。

教育プロジェクト

委員長 石川ふみよ

教育プロジェクトは、リハビリテーション看護のラダーの普及の一環として、ラダーⅣの看護師を対象として、ラダーの枠組みに基づいた研修の方向性を検討しております。方向性を検討するにあたり、プロジェクトのメンバーから以下のような意見が出されました。

- ・ COVID-19の影響もあり、回復期リハビリテーション病棟への転院・転棟が早くなっており、回復期リハビリテーションは全身状態の安定化を図るところから始まっている。また、40代の脳血管疾患患者が増加している印象があり、壮年期にある人は高齢者よりも病態が深刻で脆弱性がある。2022年度の診療報酬改定では、入院時の重症患者の割合が引き上げられており、病態をふまえた活動性向上に伴うリスクと対応について理解を深めることが必要ではないか。
- ・ ラダーⅣの看護師は、活動性向上に伴うリスクと対応に関する知識と技術をもって、対象者の意思を尊重しながら援助を行うとともに、マネジメントの役割をもつ。また、職種内外でファシリテーターと調整の役割を担うことから、これらのスキルを高めることが必要である。

検討の結果、以下のような方向性といたしました。

- ・ 診療報酬改定に伴う影響も考慮し、2年間で1クールの研修となるようにする。
- ・ 活動性向上に伴うリスクと対応の内容として、今年度は「転倒・転落」「せん妄」を取り上げる。
- ・ ファシリテーションや調整のスキルを含めた内容とする。

皆様のニーズにそった内容とするため、今後の研修に対するご意見をお寄せください。また、皆様の研修へのご参加をお待ちしております。



施設 紹介

NTT 東日本伊豆病院

看護部看護師長 市川 真



NTT 東日本伊豆病院は、1947年に伊豆通信病院として設立以来歴史を重ねてきました。静岡県伊豆半島の玄関口である函南町にあり、気候は温暖で、東に熱海市、北東に箱根山脈を眺め、北には富士山や南アルプス連山の遠望が楽しめ、海は駿河湾、相模湾が至近にあり、一年中アウトドアスポーツや温泉、自然景観を満喫することができます。当院の特色として、100床の回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病床、認知症疾患医療センター、人間ドックがあり、疾病の予防からより良い回復・生活への復帰等、地域包括ケアシステムの中核的医療機関として地域医療に求められる役割の変化に応えられるようチャレンジしています。

当院で働く看護師は、患者様の思いを大切にし、地域で再びその人らしい生活が送れることを目標に看護を行っています。このため、2022年の電子カルテ更改の機会に、国際生活機能分類（ICF）を看護過程に取り入れました。ICFの6つの要素で情報収集・アセスメントを行い、患者様の全体像を捉え、プラス面にも着目した視点の導入、活動レベルだけでなく参加レベルも含めた目標設定、多職種で共通認識を持てるケアの推進を目指しています。2020年には歩行訓練ロボット“ウェルウォーク WW-2000”を導入し、脳卒中等による歩行機能低下を認める患者様の機能向上を図っています。訓練で獲得した動作が日常生活に反映できるよう、日々多職種で様々なカンファレンスを行っています。

チーム医療において、一人ひとりが専門職として自律して、自らの役割を最大限に発揮することが求められます。このため当院では、eラーニングの導入や院内研修を積極的に行い、院外でも多くの研修会や学会参加への支援が行われています。また、自分が目指す看護を実践し、専門性を高める看護師の育成にも力を入れており、現在10名の認定看護師・特定看護師が活躍しています。看護部の理念である「一人ひとりの生命と尊厳を大切にし、回復過程を支援すること」、「対象者の想いに寄り添い、その人らしい生活ができるよう、専門性の高い知と技術を提供すること」を楽しみながら実践していきたいと思っています。



編集委員会からのお知らせ

本学会会員の方はメディカルオンラインで『日本リハビリテーション看護学会誌』第1巻～第10巻の掲載論文を無料でご覧いただけるようになりました。どうぞご利用ください。

メディカルオンライン

URL : <https://www.medicalonline.jp/>

ID : 1100007293-07

パスワード : buvgne9m

(2023年3月まで有効)

編集後記

朝・晩めっきり涼しくなってきましたが、いかがお過ごしでしょうか。

7月の「新型コロナウイルス第7波到来」以来、ストレスもマックスとなり、気分が休まらない日々が続いていることと思います。本来ならば「読書の秋」「スポーツの秋」「食欲の秋」などいろいろな秋を堪能する季節です。今の状況で何かできることを探してみませんか。

これからだんだんと寒い季節となりますが、体調を崩されませんように・・・

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 浦野妃路美